

題材【CASE 1…怪獣現る】

首脳会談のために、海外に赴いていた大統領のもとに、  
随行していた秘書官が、青い顔をして近づいてきた。

「大統領、たいへんです。」

ホワイトハウスで怪獣が暴れているそうです。

怪我人も、たくさんでている様子です」

「何ということだ。早く手を打ってください！」

「大統領、お言葉ですが、この事態を収束できるのは、

大統領ご自身しかありません。」

すぐに、大統領のお言葉を伝えてください」

大統領は、大きく深呼吸をして、

落ち着いた声で話しはじめた。

【応募作品】

「非常事態用安全システムの解除を許可する」

大統領の表情からは、

それが苦渋の決断だったことがうかがえた。

その後、怪獣は爆発して木端微塵となり、騒動は解決した。

一連の騒ぎはおさまった。

しかし、大統領の顔色が晴れることはなかった。

怪獣とともに爆発し崩壊したホワイトハウスを見ながら、

大統領がふいに言葉を漏らした。

「なんということだ。あんな大変な思いをして作ったというのに……」

それを聞いていた秘書官は、大統領に慰めの言葉をかけた。

「建物以外の被害はほとんど出なかったんですから、

よかったですじゃないですか。ホワイトハウスはまた作り直せば……」

「そういうことじゃない！」

秘書官の言葉をさえぎり、大統領は遠くを見ながら、こんなことを考えていた。

「ホワイトハウスなんて、どうでもいい。」

あの怪獣を作るのに、いったいどれだけの予算を使ったと思っているんだ。

もともと敵国を襲わせるために作ったのに、

運搬前に、自国内で暴れ出してしまおうとは……」